

退職にあたっての雑感

一般科 金田昭久

弱冠 26 歳、その年に私は宇部高専に赴任しました。爾来 37 年間、現在在職中の先生はもちろん、卒業していかれた多くの先生方にも大変お世話になりました。有難うございました、深く感謝しています。

教育とはほんとうに難しい仕事です。個性的な学生というものは何時の時にもおり、クラス担任をするのが楽しい時もあり、逆に何人かの学生に大変苦労させられたこともありました。宇部高専の一年間の学校行事・・・入学式に始まってクラスマッチ、高専祭・・・等は時が経ってもそれほどの変化はないと思います。しかし以前に比べると正直言って、学生諸君の言動に「活気」が見られない、というのが甚だ残念な印象です。若い時に一つの事に打ち込む、燃えるという体験は非常に意味があると思うのですが。

「教育」という営為に終わりはありません。自分としては何時も「学生と共に」行動をしてきたつもりですが、どれほど彼らに認められたでしょうか。

また教育には非常に疲れる要素も含んでいます。しかし学生に「与えること」の多い生き方をすれば、それだけ還ってくるものも多いようです。卒業後も手紙やメールで様子を知らせてくれる、これは「教師としての大きな喜び」です。

宇部高専が今後もしっかりした学生を輩出することを祈っています。

以上